

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームはるかぜ西陵
(ユニット名)	2階
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿児島市西陵5丁目12番4号
記入者名	2階計画作成者 万田保美子
記入日	平成 21年 4月 20日

(部分は外部評価との共通評価項目です)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分達で意見を出し合い理念を作りました。「利用者と家族の絆を地域の中で大切に支えていく」という一節があります。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの目につくところに理念を掲げ、常に理念を意識してケアに取り組むように心がけています。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族や地域の方々がおいでになった際すぐ目につくよう、玄関の掲示板・エレベーター内・フロアに理念を張り出しています。また、運営推進会議などで地域の方々にも理念を紹介しています。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の散歩やスーパーへの買い物、近くのクリニックの受診などで地域の方々と言葉を交わすことも多く、近隣清掃などの機会にも気軽にあいさつを交わしあっています。町内会に加入し、運営推進会議にも度々町内会の方々の出席があり行事参加へのお誘いをさせていただき、参加しております。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会にも加入させていただいており、運営推進会議では自治会、老人会、中学校のPTAの皆様なども出席いただいております。地域の方々のボランティア交流もあります。おはら祭りは踊り連がホーム前で踊って下さいますし、西陵夏祭りの見物ではわざわざお席を準備していただけるなど交流ができています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議に地域の高齢者クラブの会長さんがたに出席していただいた際、日頃感じていた介護保険の疑問点、今後施設を利用するにあたっての質問等が話題として上がりました。これからもこのような交流を続けていければと思います。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ各自がそれぞれのケアのあり方を振り返り、反省すべきところはないかを見つめ直すいい機会だととらえています。改善すべき点についてはスタッフ一同真摯に受け止め改善に取り組んでいく所存です。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域の方々や消防署、警察、地域包括生活支援センターの方々に参加していただき開催しています。その中で頂いたご意見・ご助言はホームでの取り組みに参考になります。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	疑問点があると管理者に相談し、解決しない問題については管理者が市町村担当者へ電話等でその都度尋ねてもらっています。早い解決でサービスが滞ることがないよう努めています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度があることは知っているが、未だ利用されたことは無くご家族からの相談もありません。	○	相談を受けた際、速やかに情報提供できるよう勉強の必要があると思います。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成しています。スタッフミーティングの時は高齢者虐待について暴言暴力はもちろんのこと施錠・チャイム・ベッド柵…等々、職員が虐待ゼロでケアに取り組むよう周知徹底しています。日常でも職員同士で話題にし入居者本位の安らいだ生活が過ごせるよう努めています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を一緒に読み合わせ、疑問点は質問してもらい納得をしていただいた上で契約していただいています。		
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約の際に苦情相談についてはどんな些細なことでもお聞かせ頂こうお伝えしています。御面会の際などもホームの雰囲気や入居者のご様子についての感想を伺ったりして気軽にスタッフに意見を聞かせていただけるよう努めています。玄関には御意見箱を設置しております。改善すべきご意見には速やかに対応しております。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	御面会の折、随時最近のご様子はお知らせしています。また、個別的に月1回《西陵便り》でご利用者の暮らしぶりや健康状態、職員の異動などについてもお知らせしていますし、金銭管理についても領収書やレシートを添えて定期的に報告しています。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御面会の際などにご意見を伺ったり、外部評価のアンケートを参考にさせて頂いています。昨年6月に法人独自で家族アンケートを行い、ご家族からの貴重なご意見も頂きました。これらの事はよりよいグループホームを目指しての参考になります。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回管理者会議があり、運営者には管理者を通じ現場の意見を聞いてもらっています。ハード面については、要望を伝えてもらうことで改善に繋がります。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	グループホームの基準に沿った人員が確保されています。また、行事や受診の時など必要に応じ増員がなされ柔軟に対応できています。早出・遅出の当番制を導入しており、朝夕のケアに支障をきたさないよう配慮がなされています。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員全員が働きやすい職場作りに心がけ、まず《利用者本位》を優先で管理者には職員配置をしてもらっています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内でも研修が計画的に実施されている。同じ内容を数回実施して全員が受講することで情報を共有しケアに斑がないよう研鑽を促している。また、外部研修にも参加の機会を設けてもらい、ミーティングの時などに研修報告をして業務に反映するよう努めています。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿児島県、鹿児島市のグループホーム協議会に加入し、講演会や事業所の事例発表会、行政の実施する勉強会などに参加させていただいています。そのような機会に他事業所との交流もでき、ネットワーク作りができ情報交換することによりサービスの質の向上に役立ちます。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、職場環境に対して働きやすい職場になるよう取り組んでもらっています。職場ではスタッフ同士で声を掛け合いストレス軽減になるような時間を持てるよう努めています。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者には管理者会議などで現場の意見を聞いてもらうよう管理者に進言しています。管理者より、随時心身面の健康管理については声かけをしてもらいスタッフ各人の把握をしています。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望のご相談の際は、できる限りご本人のホーム見学をお勧めするとともに、ご本人のもとに出かけ面談させていただいています。その際、ご本人の生活に対する意向を伺い、グループホームの生活の様子などをお話しさせていただいています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にグループホームの見学もしていただき、施設内外の様子、雰囲気などを見て感じて頂きます。面談ではご家族の困っておられることや今後の不安、また大切な肉親が入居するにあたってどのように生活してほしいか、を伺います。そして、ご本人にとって望ましい生活を一緒に考えて頂けるようにしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの利用基準に沿って説明させていただきま す。ご利用者・ご家族のニーズによっては他のサービスや施 設紹介もしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら 工夫している	入居前の見学や面談の際、ご本人やご家族からの情報収集 に努め、入居された方が環境の変化による戸惑いが最小限 に抑えられ、早く新しい生活に溶け込んでいただけるようア セスメントしたことや生活歴を参考にしながらケアを始めます。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の生活の中で、スタッフと一緒に洗濯物を干したり、畳ん だり、台所に立ち食事の準備、調理・味見、作り方を教えて頂 くなどの家事参加。出来る方もいれば出来ない方もいらっ しゃいますが、できない方には傍にいて作業を見ていただい たり鹿児島弁の会話・・・等々和気あいあいと明るい雰囲気 の中で関係作りができていていると思います。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	面会時や電話をいただいた時など、随時ご本人の様子をお 伝えしていく中で御本人がどのように生活していきたいか、ご 家族の意向も伺いながらケアプランに反映させ、ご本人を一 緒に支えていくという関係が築けていると思います。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援 している	ご家族が気軽に訪問でき、入居者と居心地良く過ごせるよ うな雰囲気作りに努めています。花見や忘年会、敬老会、母の 日、父の日、誕生会などにはご家族へも参加の案内をし一緒 に楽しんでいただけるような機会を作っています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	入居されてからも親戚や友人の面会を大切に支援していま す。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合 えるように努めている	認知症のレベルにもよりますが、1階の入居者が2階へ、2階 の入居者が1階へと自由に行き来し交流しています。その中 で、名前を覚え呼んでいる光景も見かけます。コミュニケー ションが難しいレベルの方や難聴の方などはスタッフが橋渡 しを行うこともあります。同じ世代を過ごしてこられた方々は 短い会話でも意気投合されるようです。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後の入院先へ見舞に行ったり、施設へ面会に行ったりしています。そんな中でご家族にお会いしたりした時はお話を伺ったり、必要に応じてはご本人やご家族からの相談を受け、応じております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人の人格や思いを大切にし、プライドを損ねることのないよう個別的なケアを心がけています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族より入居前の面談や入居後の折に触れての会話からこれまでの生活歴はもちろん、お若い頃の体験談、エピソードなどを伺います。スタッフは情報を共有し、グループホームでの生活の中で話題にしたりして生き活きとした表情で安らいだ生活ができるような環境作りに努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人一人の思いを察し、自己決定を尊重しプライドを損ねることのないよう、その一日が大切な一日との思いで支援しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人の生活の意向、ご家族の意向、スタッフが把握しているご本人の心身面の状況等を踏まえサービス担当者会議で話し合い、各意見が反映された個別性のあるケアプラン作りに心がけています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間、状況変化に応じカンファレンスを開き見直しを行っています。実施記録はひと月ごとに点検しており、スタッフからも随時問題・課題については報告を受け、自由な意見交換もあり現状に即したプラン作りに努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事摂取量、排便状況、バイタルチェックなどの日々の記録や特記すべき変化などを記録しています。毎朝の申し送り時に休日明け出勤のスタッフにまでしっかり情報共有ができるようにし、日々のケアが滞ることのないようにしています。また、介護計画の作成にも活かされています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護保険制度の中で対応できることは柔軟に支援できていると思います。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の小中学校から運動会や文化祭の招待の声かけをいただいて見学に行ったり、先日は西陵中学校から生徒会活動の一貫としてアルミ缶タブの収集で購入した車椅子を寄贈していただきました。運営推進会議には地域の民生委員や警察、消防関係の方々も出席してくださり助言をいただいたり意見交換ができています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今のところありません。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところありません。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族には入居時に受診についても説明を行い、御希望の医療機関を受診していただいています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別性に配慮し見守りや声かけ、定時での案内を行っています。排便チェックをしており、便秘予防に配慮しながら気持ちよく排泄できるよう支援しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応週3回(月・水・金)の入浴日は設定していますが、希望や状況に応じ柔軟に対応しています。入りたい時間にプライバシーに配慮してそれぞれのペースでゆったり入浴していただけよう支援しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の睡眠状況、活動状況、体調などにより休息や昼寝をお勧めしたり、日中の活動性を促すような個別的な支援を行っています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家庭的な環境の中で調理、食器洗い、洗濯物を干したり畳んだり、掃除、買い物・・・など、もちろんできる方できない方おりますが、それぞれの方の個性と力を活かし張り合いを持って取り組めるよう支援しています。算数ドリルの計算、懐メロや童謡を歌う、読書、テレビやラジオ視聴など、その方が楽しめる時間を支援しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支障のない方にはお財布を持っていただいています。ご家族よりお預かりした《預かり金》もありますので、スタッフと一緒に出かけ好みの物や日用品を購入することもあります。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの玄関は日中を通し鍵をかけておらず、自由な出入りが可能です。散歩や買い物など希望があれば一緒に出かけられるようにしています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「木市に行きたい」「海を見に行きたい」「外食したい」「コスモスを見に行きたい」・・・などの希望で、ご家族にも声かけて個別に外出の機会を作っています。出かけたくない方へは無理強いはしませんが、今年の4月は9名全員で慈眼寺公園に花見に出かけました。戸外で食べたお弁当の味は格別で「最高じゃな～」という入居者の声もありました。	○	「また木市に行きたい」「水族館に行きたい」との声もあり、いい時期を見て実現したいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時にかけるように配慮しています。ご家族が遠方に在住の方もいて、年賀状や暑中お見舞いのハガキなどは写真をプリントしたり、なるべく自筆の文言をお届けできるように支援しています。ご家族からのお便りは入居者の方も喜ばれます。ハガキは居室に掲示して長く喜んでいただくこともあります。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご面会の方々がいつでも気軽にお出でいただけるよう日頃の声かけに配慮し、訪問時はプライバシーに配慮したり、ゆっくりと語らえるような場を提供できるよう心がけています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は、してはならない行為として職員全員が認識しています。身体拘束防止マニュアルを作成し、身体拘束ゼロのケアを実践しています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵は付いておらず、玄関は日中施錠はしていません。1階と2階の行き来も自由にしていただいております。玄関の見えない2階の環境では入居者の所在確認の徹底や見守り、外出傾向の把握することで1階職員と連携をとっています。出かけた方については同行するなどの対応をしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフは昼夜それぞれの持ち場で、プライバシーに配慮しつつ動向を見守り、リスクを踏まえた声かけを行っています。機能維持、自立支援を大事にしながらも怪我のない安全な生活が送れるようにこの思いでケアに努めています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の個性により、危険回避の為にご家族ともよく話し合った上で居室のカーテンを外し、ダンスをお預かりしている方がいます。フロアに布団を敷いて休んでいただいている方もいます。命にかかわるような危険行為があったり、実際骨折され入院の経緯からご家族の強い希望の下の取り組みです。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	安全対策マニュアルがあり、ミーティングの時にもヒヤリハットの情報をそれぞれのスタッフが共有して、入居者のリスクを周知把握したケアに努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応については年1回勉強会を行っています。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中、夜間を想定した消防訓練を行っています。また、運営推進会議では消防署や地域の交番からも参加して頂き、災害時の対応について町内会の役員の方々も交え意見交換をしました。	○ 隣のグループホームとは連携して協力を得られるような体制はとっていますが、2階のフロアでもありますし、緊急時はできるだけ多くのお手伝いが欲しいですので地域の方々との連携は今後の課題です。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日頃より日常の様子をご家族へはお伝えし、リスクへの対応を含めご相談させていただいています。その中で、抑圧感のない暮らしはリスクを伴うということもご家族にお話し、ご理解をいただくようにしています。危険回避からご家族の提案にも耳を傾けた対応をしています。	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝の申し送りで、日勤者は入居者の状態を把握します。毎日検温、家庭用血圧計での血圧測定、食事の摂取状況、排便チェックの記録を行い、排泄時や入浴時の介助、行動や表情などあらゆる場面で変化を見逃さず早め早めの対応ができるように努めています。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を作成しており、すぐ確認できるように身近に掲示しています。入居者がどのような持病がありどのような薬を飲んでおられるか、どのような副作用が起こりうるかを把握して注意観察し、適切な服薬支援をしています。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェック表を作成し、毎日チェックして便秘回避に役立てています。食事に繊維質の野菜を取り入れる、十分な水分摂取、適度の運動の声かけなどの働きかけをしています。便秘薬を服用されている方は、排便状況を見て調整と薬を行います。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人一人に歯磨きの声かけををして、必要に応じ仕上げ磨きや義歯の洗浄、夜間の義歯消毒を支援しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは十分配慮した食事を提供できていると思います。お一人お一人の体調や持病、機能に応じた食事の形態にも配慮しています。食事ごとに摂取量は記録し、水分量も食事時のほかに10時、3時のお茶タイムを設け、時にはコーヒーや紅茶を提供したり、飲量が進まない方にはジュースを勧めたりします。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作成しています。感染症に対する注意は怠らないよう各スタッフが自覚し、入居者を含め手洗い・うがい、温度・湿度など住環境への配慮、流行時は消毒スプレーや使い捨てマスクを訪問者にも使用していただきます。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	旬の野菜など新鮮な食材を使い調理するよう心がけています。賞味期限や使用期限には細かい注意を払い、清潔な調理器具、煮る・焼く・蒸すなど調理法にも気配りができています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	住宅地の中のグループホームとして親しんでいただけるよう、また入居者や訪問されたご家族が季節感を感じ和んでいただけるようお花がいつも咲いている玄関風景を心がけています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵や季節の花を飾り、また時には造花で明るさを演出したり、季節感を感じていただけるような展示物をするなど工夫しています。広いホールには一日中光が差し込み、日向ぼっこをしながら人や車の流れを眺めたり、うたた寝をされる方もいたり・・・安らいだ生活ができる空間となっています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳のスペースで洗濯物をたたむ方、計算ドリルに没頭する方、車椅子を自力で動かされ他者のお部屋訪問、各スポットのソファでくつろぎ音楽やテレビを楽しまれている方・・・などなど、抑制されることのない空間で思い思いにお過ごしいただいています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人やご家族へは、アルバムや思い出の品、馴染みの家具などの持ち込みもご案内しています。ご家族が入居者の好まれるようなお部屋作りをしてくだり、安心して生活できる場所になっていると思います。ただ、一時的にホテルに宿泊しているつもりで帰宅するための荷造りを解かれられない方もいます。	○	居心地が悪いわけではないと思いますので、その方の自宅を大切にしている思いを大切に、気持ちが安定して『ここが一番暮らしやすい』と言ってもらえるような日が来るように気長に支援していききたいと思います。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	必要に応じて窓の開閉や換気扇・加湿器の使用、冷暖房機の作動により入居者の皆様の反応も伺いながら快適な環境作りを努めています。温度計や湿度計の数値も参考にします。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内はバリアフリーとなっており、移動にも各所に手すりが設置されています。2階フロアではありますが、エレベーターがあり脚力の弱い方や車椅子の方も安全に階下へ移動できます。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレのノブの不具合があり、開け方を張り紙しています。自分のお部屋を探される方もいて、各お部屋の見やすい位置に大きな字で《○○さんのお部屋》と明示しました。日頃から、環境が原因で混乱が起きている方がいないか、注意観察を行っています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは物干し場になっており、スタッフと一緒に洗濯物や布団干しなど活躍の場になっています。玄関アプローチには季節の花が咲いており、外気浴をしたり、時には鉢植えや花壇の草取りが始まることがあります。お花の名前や育て方を教わったり会話が盛り上がる場にもなっています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当グループホームの開設当初から、毎食後の口腔ケアに取り組んでおり、昨年もそうでしたが今年の冬もインフルエンザや嘔吐下痢症になる方もなく、入居者の皆様が元気で過ごされました。2階の職員の平均年齢は50歳くらいと少々高め。若さで勝負！というわけにはいきませんが、介護職の経験は豊かで、みんな明るく元気なスタッフです。全員が《入居者本位のケア》を心がけ、実践できていると自負いたしております。